

説 教

創立22周年記念礼拝 北浜チャーチ
黒田 禎一郎

主 題：「アドナイ・イルエ」
—主の山の上—

テキスト：創世記22章1-14節

はじめに

- ・私たちは今日、北浜インターナショナル・バイブル・チャーチ創立22周年を迎えています。ここまでの主の尊いお導き、そして兄弟姉妹のお祈りと奉仕に、心から感謝します。
- ・創立記念礼拝日を迎えて、主様は「アブラハムの信仰」から学ぶように導いてくださいました。そこで、私たちは信仰の父アブラハムが、どんな信仰をもっていたかを学びたいと思います。
- ・先ずアブラハムは信仰生活で4つの大きな「決断の時」に出会いました。

① 創世記12章

カランを旅立つ時です。カランはメソポタミヤの北西部、ユーフラテスの東側流域に位置しています。彼はそこに75年以上住み着いた後に、大きな幻を受けました。

12:1 その後、主はアブラムに仰せられた。「あなたは、あなたの生まれ故郷、あなたの父の家を出て、わたしが示す地へ行きなさい。創世記

- ・彼は神の言葉を信じ、長旅に出発しました。この時、彼は75歳、彼の信仰のアドベンチャー・ワールドの始まりでした。

② 創世記15章

結婚して約60年間、彼には不妊の女性サラとの生活で、子どもが与えられませんでした。ほとんど諦めようとしていた時、神はこのように語りかけられた。

15:5 「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」 創世記

- ・彼は不可能の現実の中で、神から約束を受けました。

③ 創世記17章

- ・神との契約の民として「割礼」を受ける時です。

17:10 次のことが、わたしとあなたがたと、またあなたの後のあなたの子孫との間で、あなたがたが守るべきわたしの契約である。あなたがたの中のすべての男子は割礼を受けなさい。 創世記

④ 創世記22章

- ・一人子イサクを神に捧げ物として、火が燃える祭壇に捧げようとする場面です。

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」 創世記

- ・この4つは信仰の父であるアブラハムが、決断した重要なステージでした。私たちも人生の決断を求められることがあります。アブラハムは、その大切な決断を、どのように行ったのでしょうか？ 今日、④番目の大試練から学びたいと思います。

大切なポイント

1. アブラハムの試練

22:2 神は仰せられた。「あなたの子、あなたの愛しているひとり子イサクを連れて、モリヤの地に行きなさい。そしてわたしがあなたに示す一つの山の上で、全焼のいけにえとしてイサクをわたしにささげなさい。」

- ・アブラハムは、神が言われたとおり従順でした。そして、み言葉は次のように語っています。

22:6 アブラハムは全焼のいけにえのためのたきぎを取り、それをその子イサクに負わせ、火と刀とを自分の手に取り、ふたりはいっしょに進んで行った。

アブラハムは「火と刀とを手に取り」、モリヤの山に登って行きました。

- ・皆さん。このイサクは、自分が殺され、そして焼かれ、神へのささげものとなるたきぎを背負って歩く姿です。考えてみてください。なんと残酷な姿ではありませんか。自分がかかる十字架を背負い、ゴルゴタの丘へ向かったイエスの姿に通じるものがありますね。
- ・イサクはアブラハムのかげがえのないひとり子、自分の命のように大切なひとり子です。アブラハムの心はどんなであったでしょうか。

22:7 イサクは父アブラハムに話しかけて言った。「お父さん。」すると彼は、「何だ。イサク。」と答えた。イサクは尋ねた。「火とたきぎはありますが、全焼のいけにえのための羊は、どこにあるのですか。」

- ・皆さん。このイサクの問いに、父アブラハムは一瞬その心臓をぐさりと、えぐられたように違いありません。それは、素直なおだやかな問いでしたが、アブラハムにとっては真に辛い、聞くに耐えない問いでした。アブラハムは答えました。

22:8 アブラハムは答えた。「イサク。神ご自身が全焼のいけにえの羊を備えてくださるのだ。」こうしてふたりはいっしょに歩き続けた。

- ・イサクの問いに対し、アブラハムは「それはお前だ！」とは、さすが言えませんでした。すべてのことは神の御手に委ねられている、というのがアブラハムの答えでした。
- ・皆さん。私たちも人生において、いろいろな経験をさせていただくものです。悲しい経験もあります、苦しい経験もあります、あるいは素晴らしい喜ばしい経験もあります。しかし、その一つ一つを通して、私たちの信仰は完成へと導かれていくのです。
- ・この時のアブラハムの心境は、この約束の子を殺してしまったら、いったいどうなるかです。星の数のように子孫を与えられた約束は、どうなるのだろうか？ というつぶやきは、もうなかったと思います。

2. 神は「アドナイ・イルエ」である (主の山の上に備えがある)

22:10 アブラハムは手を伸ばして刃物を取り、息子を屠ろうとした。

22:11 そのとき、【主】の使いが天から彼に呼びかけられた。「アブラハム、ア

ブラハム。」彼は答えた。「はい、ここにおります。」

22:12 御使いは言われた。「その子に手を下してはならない。その子に何もしてはならない。今わたしは、あなたが神を恐れていることがよく分かった。あなたは、自分の子、自分のひとり子さえ惜しむことがなかった。」

22:13 アブラハムが目を上げて見ると、見よ、一匹の雄羊が角を藪に引っかけていた。アブラハムは行って、その雄羊を取り、それを自分の息子の代わりに、全焼のささげ物として献げた。

22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。

今日でも、「主の山の上には備えがある。」と言い伝えられている。

- ・この言葉は、私たちに勇気を与えてくれます。力強い言葉です。必ず主は、そこで必要なものを備えてくださいます。主は、アブラハムに全焼のいけにえの羊を備えておられました。
- ・私たちの歩みにおいても、必要なものは神が備えてくださいます。私たちは過去において、事柄は小さくても、幾度も「アドナイ・イルエ」を経験したのではありませんか。あの時、あの所で、主は私に備えてくださっていました。もし備えてくださらなかったならば、どうなっていたでしょうか。
- ・皆さん。これから先もそうです。神はおことばを守られるお方です。必ず「アドナイ・イルエ」をもって導いてくださいます。どのように行きづまっても、必ず逃れる道を備えていてくださいます。どのような試みがあっても、神は必ずその中に逃れる道を備えていてくださいます。

1 コリント人への手紙

10:13 あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。

- ・主を信じ、従っていく者にとっては、その行くところどこでも、「アドナイ・イルエ」として歩くことができるのです。どこでも、主は必ず必要を備えてくださるからです。そのような主のお取り扱いなしに、私たちの信仰は前進することはありません。

ま と め

主 題：「アドナイ・イルエ」

—主の山の上—

- ・私たちは今日、信仰の父アブラハムの生涯で、もっとも重要な決断をしたストーリーから学びました。今年、「信仰の決断」をしなければならぬことがあるかも知れません。アブラハムが結論として、語った言葉を今日のまとめとしたいと思います。

22:14 そうしてアブラハムは、その場所を、アドナイ・イルエと名づけた。

今日でも、「主の山の上には備えがある。」と言い伝えられている。

- ・私たちも主を見上げ、主を信頼し、主とともに歩む時、「アドナイ・イルエ」という生活を過ごすことができます。私たちの主である神は、「備えの主」です。

- 行きづまりや試練があっても、必ず逃れの道を備えておられますから感謝します。私たちもそのような信仰を持って、クリスチャン生活、そして教会生活を過ごそうではありませんか。

* God bless you!